

心に太陽をもて

山本 育三

心に太陽をもて

あらしが吹こうと吹雪が吹こうと

天は黒雲地には争が絶えなかりうと

いつも心に太陽をもて

苦しんでいる人や悩んでいる人には

こう励ましてやろう

勇気を失うなくちびるに歌をもて

心に太陽をもて

【作者】山本育三（一八八七～一九七四年）・大正「昭和時代の劇作家・小説家」。

明治二十年七月二十七日生まれ。東京帝大在学中に芥川竜之介らと第三次「新思潮」を創刊。社会劇、歴史劇を次々に発表し、大正末期より小説に転じる。戦後は参議院議員となり、国語問題にもかかわった。芸術院会員。昭和四十年文化勲章。昭和四十九年一月十一日死去。八十六歳。栃木県出身。本名は勇造。戯曲に「嬰兒殺し」「坂崎出羽守」小説に「波」「女の一生」「路傍の石」など。

【格言など】心に太陽を持って「心に太陽を持って」